

大阪湾における水質の水平分布・漁場分布等について

大阪湾の水質の水平分布・漁場分布等について、資料4から抜粋して整理した。

(1) 水質の水平分布

- ・COD、全窒素・全りんについては、湾中央部、湾口部と比べて湾奥部の濃度が高くなっており、濃度勾配はCODと比べて全窒素・全りんが大きい。
- ・底層DOについては、湾中央部、湾口部と比べて湾奥部の濃度が低くなっている。8月には、高石市付近から神戸市東部付近の沿岸にかけて、貧酸素耐性が高い水生生物の生息に必要とされる2mg/Lを下回っている。

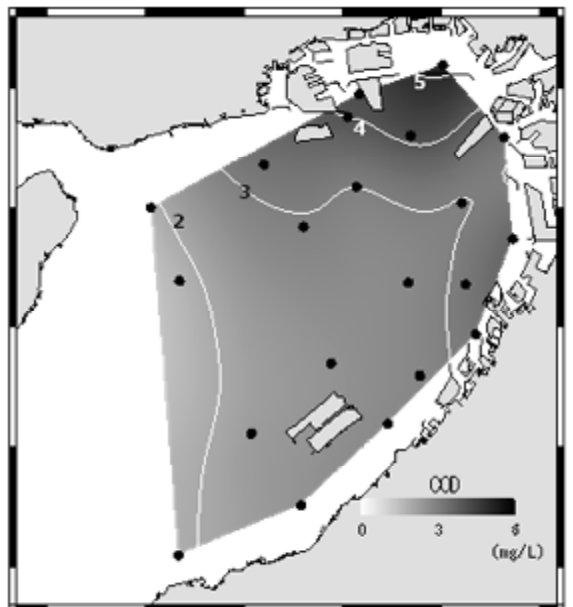


図1 CODの全層平均の年75%値 (mg/L) の平成24年度から26年度の平均値の水平分布(大阪府及び兵庫県が測定する環境基準点におけるデータを基に作成)

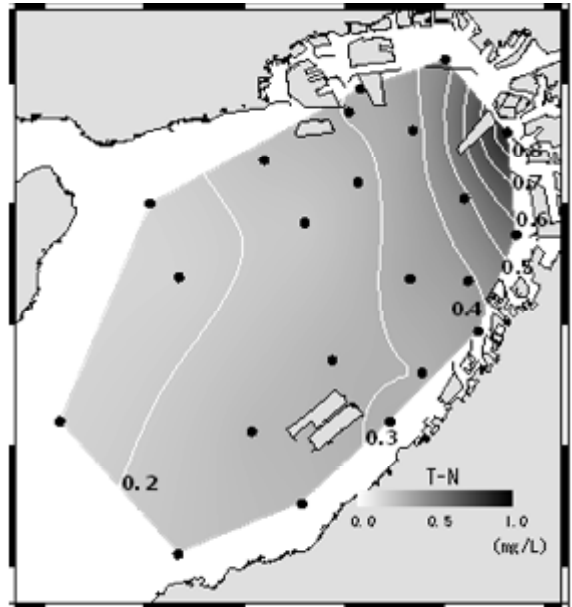


図2 全窒素の表層の年平均値 (mg/L) の平成24年度から26年度の平均値の水平分布(大阪府及び兵庫県が測定する環境基準点におけるデータを基に作成)

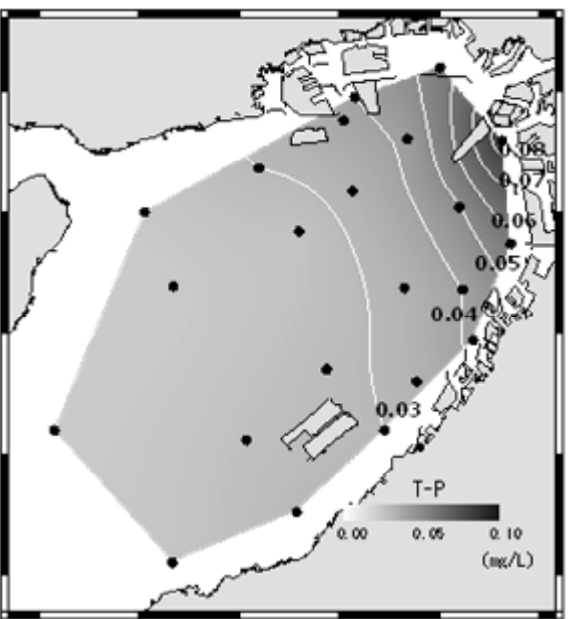


図3 全りんの表層の年平均値 (mg/L) の平成24年度から26年度の平均値の水平分布(大阪府及び兵庫県が測定する環境基準点におけるデータを基に作成)

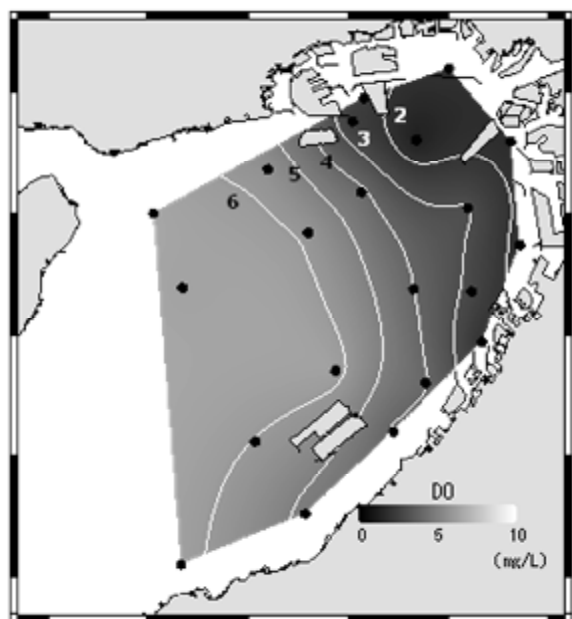


図4 8月の底層DO (mg/L) の平成24年度から26年度の平均値の水平分布(大阪府及び兵庫県が測定する環境基準点におけるデータを基に作成)

(2) 漁場分布等

- ・大阪湾はほぼ全域が漁場として利用されており、湾内で比較すると、明石海峡付近から湾北部の利用が多く、湾奥の沿岸部や湾南西部の利用が少なくなっている。のり養殖については、湾南西部で行われている。
- ・幼稚魚の主生育場としては、湾全体の沿岸部が利用されており、特に湾奥部がよく利用されている。

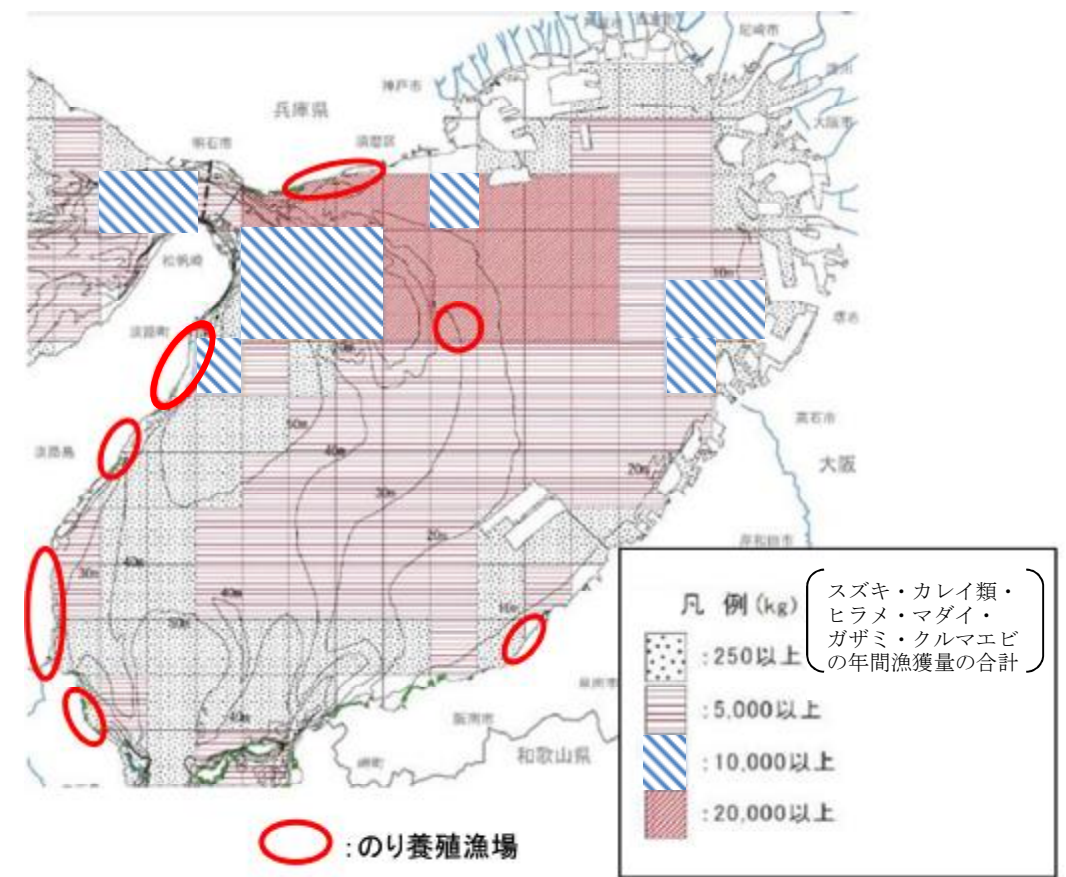


図5 大阪湾における主要魚介類(スズキ・カレイ類・ヒラメ・マダイ・ガザミ・クルマエビ)の漁場分布図(平成24年12月 中央環境審議会答申「水生生物の保全に係る水質環境基準の類型指定について」)及び大阪湾におけるのり養殖漁場の分布概略図(大阪府地先海面における漁業権免許連絡図(平成25年9月1日 大阪府)及び兵庫県漁連ホームページのり漁場図を基に作成)

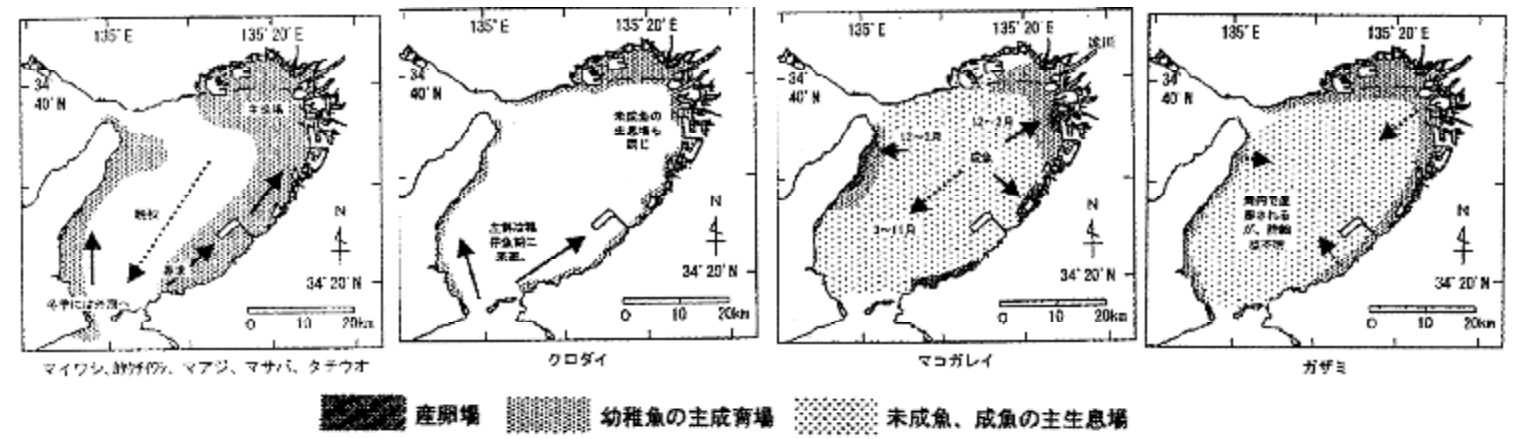


図6 大阪湾における主要魚介類の生態概略図(一部抜粋)(平成14年11月 社団法人日本水産資源保護協会「大阪湾の海域環境と生物生産」)